

エッセー

エッセー
自然が育む

「この花、きれい」「この全てに慣れたのではない虫、面白いね」「このく、発見するという「心が躍る」素直な気持ちを
穴、何だろう?」

子どもたちにとって目

の全てに慣れたのではない、発見するという「心が躍る」素直な気持ちをついしか忘れていただけ

大人がこのCゾーンから飛び出し、自然や生活の営みから得ることのできる、発見する喜びや瞬

くれる感覚だと考えています。

私は、子どもたちが大人に求めているのは、一緒に遊んでくれる行為ではなく、一緒に共感して

ていて「おっ」と思った。感覚がきつと動きだしま
大きな瞬間がチャンス。すよ。
一緒に楽しめば、子ども
の感受性が高まるだけで
然の家所長 田中誉人
なく、大人自身の忘れた

に入ってくる周囲の物、形、色、においなど全てが興味を持つ対象です。

チャンスを逃さない！

歩いているだけでいろんなものを発見し、感動し、楽しんでくれます。でも、

だと考えています。

間を大切にしている姿 ってくるかもしれません

発見をしたというような
日常の驚きは少なくなり
ました。周囲の自然や人
間の営みは日々変化して
いるはずなのに、慣れて
しまったからでしょうか？

人間は成長する過程の中でいろんな「殻」をつくりまわす。大抵は物事の見方を固定してしまい、安心できる自分の殻から出ることなく日々を過ごします。私たち自然体験

は、子どもの心にも大きく影響してゐるでしょう。一緒に野山や近所を歩くことが大好きになり、「ふるまひ」というものを構成する大切な要素である原風景をつくりましよう。

いえいえ、私を見るも

教育の中では、その殻の

出していくことができません。

子どもと一緒に活動し



心躍る発見を求めて出掛ける子どもたち